



日本郵政、郵便事業の進行

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

郵便の近代化、郵政の整備

郵便の普及、郵政の発展

大田南畝の書

下

事務上之現今米國排外

運動之現況(1900)

據原書其內容之要點如下

一、美國之排外運動

二、排外運動之原因

三、排外運動之經過

四、排外運動之結果

五、排外運動之影響

六、排外運動之未來

七、排外運動之結論

八、排外運動之附錄

九、排外運動之參考文獻

十、排外運動之說明書

十一、排外運動之問答

十二、排外運動之圖表

十三、排外運動之照片

大隈首相致函

存下
早稻田

伯密爾大隈重信殿

親展



菊川及津市町可

早稻田

88

英の及洋の事

島田三郎

開國米人友情の回顧
初期

米利堅合衆國政府は一隊の軍艦を派遣して、近々我
 帝國を訪問せしめんとす、三軍艦の渡来は、珍として特に
 記すに足らざりと雖、今日の米國艦隊は、越ふより往年渡
 来せる同國艦隊と追懷せしむるものあり、五十餘年を
 隔てたる米國との後二回、訪問は、吾人に幾多の感懐を
 及せしめんとす、往年の舉は日米の交際を開けり、今回
 の事は益々兩國の信睦を厚くせしめん、前後時を隔つること
 五十餘年、然れども、昔に有力なる修交の機を與へて、
 國際の平和を達めんとするは、吾人の深く願ふ所あり、

銀座尾張町明進堂製(十行)

顧るに我日本嘗て海港を鎖して、列國の交際を拒絶せ
 して殆ど二百五十年、我國は其間に世界の進歩顯著に



國際の平和を違めんとするは吾人の深き願が所あり、

顧るに我日本嘗て海港を鎖して、列國の交際を拒絶せしと殆ど二百五十年、我國は女間に世界の進歩顯著にして、列國の形勢大に變りたるを知らずして、通交を危険たりとし、貿易を有害ありとし、世界の潮流の外に立つるを以て、護國の良計ありと信したり、其時に際し、米國政府はペリー提督を使節とし、四隻の軍艦を率ひて、我下田の海口に來りしめ、我に開港を勧告せしが、我は國法を固守して容易に之に應ぜざりしかば、提督は我に熟考の餘地を與へ、再渡を約して去り、翌三年前に復れり、八隻の軍艦を率ひて、東京灣に來り、列國通交の必要

を論じ、横濱の海岸に我全權と應接して、開港を約し、締結す(我安政元年三月三日即ち一千八百五十四年)

度の軍艦を率ひて、東京湾にあり、列國通交の必要

を論じ、横濱の海岸に我全權と應接して開港条
約を締結す(我安政元年三月三日即ち千八百五四年
三月二十一日)此處に接して、ペリー提督は唯口舌を以て
開港の已む可からざるを説けるのみならず、鐵道電信の
標本を齎し來りて、之を海岸に假敷し、其運用を

歸して、我國人の心目を文明の利器に注がしめんとせり、今日
我國內に並りく布敷せらるる、日本の便宜を考慮する鐵道
電信は、五十年前我國方に奇術視せられたり、且最近
吾餘年の歲月は、我日本を一新したり、武力の代官政治
は止みて、統一の帝國政治興れり、封建敗れて郡縣成

れり、専制政治廢せられて立憲の政治行はれたり、半
世紀を経て新なる日本を兩國は東洋に現出せり、次の

は止みて、統一の帝國政治興れり、封建敗れて郡縣成

れり、専制政治廢せられて立憲の政治行はれたり、半
世紀を経て新なる日本と兩國は東洋に現出せり、次の
如き迅速の變化は、茲を日米条約締結の時に究せり、
而して英機合會を作りし者は合衆國使節の務りなり、
彼は平和の使節を令として、米國政府の志を成し、俟せて

日本に大改革の機合を作れり、日米の修交は夫方に於
兩國々民に特殊の紀念を遺す者といふ可し、

然れども事は名の如く單純なるものあり、茲を神奈川
条約に委したる兩國の道義は、更に灼燦の光輝を及ぼして
國情を改鑄せんとせり、米國政府は正式の交際条約を結

び、俟てて通商条約を立しめんが爲めに、總領事ハリ
ス氏に条約談判の権力を與へ、我國に浚来せしめたり、

國情を改録せんとせり、米國政府は正式の交際条約を結

び、併せて通商条約を立せしめ、が爲めに、總領事ハリ
ス氏に条約談判の権力を與へて、我國に渡來せしめたり、
久し銀國の中に生息せる日本國人の多數は、開港の國情
に交渉するを憚り、人種宗教凡俗慣習を異にする外人
の派東に反對し、之を条約を結ばんとする政府を攻撃の

せり、外交する局者は開港の已む可からざるを以て見ると、

未だ國際の通規と貿易の利益とを解するに至らずして

頗る前途を危むに墜し、有力なる國人の反對に遭遇す

を以て、米國使節の要求に對して確答を懸せざりしかば、

ハリス氏は世界の大勢より推論して、列國が陸結派を以

交際を要求す可きを諷き、他の強要に屈して之に應

ぜんとすは、勢に先だちて米國に締結し、之を標準とし

ハリス氏は世界の大勢より推論して、列國が陸続して

交際を要する可きを説き、他の強要に屈して之に急
せんよりは、勢に先だちて米國に締約し、之を標準とし
て世界に連交するの利益を論じ、懇切丁寧、縱横辯
論、皆名流の心を動かし、其れをして遂に締約の利益
を信せしむるに至れり、其に於てか我當路者は責任

を一身に引受け、日米修交及び通商の条約を締結せり、

(我安政六年六月六日即古千八百五十九年七月四日)而して

英佛等の諸國引續きて通交する正とあり、若く米國の

例に倣へり、是れ米國が日本を諸國に紹介し、条約の標準

を先づ置きたる者なり、是れ日本國人の竊聽に日米交

情の深印を刻して若くは睡はざらしむる者なり、是れ五

十年間日米の交際、固断なく障礙なく、十年を経る

を乞ふ置きたる者あり、是れ日本國人之竅、髓に日米交

情の深印を刻して若るは能はざらしむる者あり、是れ五
十餘年向日米の交際、固断なく障碑なく、十年を經る
に隨ひて益々信睦を加ふる所以の第一原因あり、

然れども二十餘年、鎧國の域内に成長せる帝國の人民
が、劇に諸國と交際を開きたるは、恰も深く銘せる室内

に飛涼の空を一時に透入するが如く、永久の健康に益
ある可きも、若る劇の变化は疾病を醸生するに至る、

此も^{（日本）}の所^{（日本）}直に反抗する鎧國の運動は全國に起
れり、開國詔の勝利を得るに至る迄紛擾を各地に生じ
て、其間に眞實の血を流し、多数の犠牲を出したる、其の

國歩艱難の杖に降して、外交屢次危機に迫れり、然

れども米國は日本の眞相を看取し、厚く同情を當然と

て、英間に眞實の血を流し、多数の犠牲を出したり、英の

國歩艱難の秋に際して、外交屢次を危機に迫り、然
れども米國は日本の真相を看取し、厚く同情を當然者
の苦心に表し、後東國通の衰亡に普魯王を屈して、絶
えず友誼を尽したり、米國歸化せし蘭人ヒューズケン氏
はハリス氏の親友にして、氏と共に日本に返來し、終始日米
間の橋樑に翻譯の力を取れり、當時政情の日本人
に理解せしめたるは、唯一の蘭熱のみありしかば、ハリス氏
は特に注ぎ事としてヒューズケン氏を伴ひ來りしあり、ハリス氏
深き厚の友情ヒューズケン氏練習の翻譯、相待り日米
の交際を危難百出の間に懸系が得たり、英使エルキン

卿普使ユーレンヤルヒ卿返來して、我政府と談判を閉
くに當り、ヒューズケン氏翻譯の力を取れり、能く日英日普

澤原の友にヒューズ氏と譯すの通譯 相傳へ日米
の交際を危難百出の間に懸るが得たり、英使エリクソン

卿普使ユーレンバルト卿派來して、我政府と談判を關
くに當り、ヒューズ氏通譯の方を取らん、能く日英日普
条約の成立を助けたり、日米相互の信用は此二紳士の人
格によりて澤原を加へ、更に日英日普等の諸國間に良
好の感懐を傳へしたるは、有義の日本人の感謝する

所ありとも、反對者の疾罵は外交を媒介する者二紳士の
身に自來まわれり、ハリス氏は幸に危難を免れしも、ヒューズ氏
は暗殺せられり、我帝國を革命の時極に於て、多數
の國人國の爲めに身を殺せしが、日本の良友たりし米人ヒュー
ズ氏も、亦尖怒濤の餘波に打たれり、命を日本の國內に殉

せり、其の如き難事相繼て起るに當り、ハリス氏は其形跡
を深く尤みしめて、却て日本の爲めに難解の上方を取らん、

スケン氏も、亦突如海濱の餘波に打たれ、命を日本の國內に殉

せり、其の如き難事相繼て起るに當り、ハリス氏は其形跡
を深く尤もすして、却て日本の爲めに朝鮮の上方を取らん、
ハリス氏は其親友にして助力者たるヒースケン氏の申す親を深
く悲めども、日本外交官の分疏を諒として、互に悲之痛の誠
意を交換したりと、暴徒が外國公使館を焚き撃ち

せし時、ハリス氏は政府の困難を洞悉し、國旗を垂して
首府を退去するの議に同意せざりき、所片禁断の必要
を我に勧告し、日本をして妻烟に觸れしめざりしはハリス氏
あり、米艦下の圍の砲撃に参加せしと虽、後に其償金
を還附して、兩國の交際上(史)に深疵を留めざらんとせし

は米國あり、開鎖の論國內に紛起して、政府或は其外交
方針に迷はんと欲す遣はれし時、有力の大官を外遊せし

を還附して、西國の交際上（使）に、深疵を留めざらんとしてし

は米國あり、開鎖の論國內に紛起して、政府或は其外交
方針に迷はんと氣遣はれし時、有力の大官を外遊せし
め、海外の文明を實見せしむるの利益あるを思ひ、条約
確定の任務を世帯ぶる使節を派せよと勅告し、軍艦を
出して使節を遠遊の用に充てたるは米國あり、

日本往時の鎖國政策は、ゼスウィット教徒が政權に野心を
押ししに起りて、幾多の齟齬を思ひぬたるに因り、開國の
身に權はれり且大障礙は、宗教問題に在り、其間
題解けざれば、外交の円滑得ず望む可からず、而して
政教分離信仰自由を首として實行せらる米國の通交

は、能く我二百餘年の政を末を一言して、其範圍を打
破す可き、且最良模範を生じたり、日本が列強の班に入りて

政教分離信仰自由を首として実行せらる米國の通交

は能く我二百餘年の政教未を一言して、其範圍を打破す可き最良機會を生じたり、日本が列強の班に入りて今日の位置に達したるは、國民勢力の結果に出づると言ふ、之に活意助の機會を与へて、多年の強蓄の潛勢力を外に展ばしめたるは、我々貴國が内に國是の歸趨を定め、友邦が平和の交際を外より勧め、二者相結んで之を致さるも亦あり、多數の國民始りて通交を嫌忌して外人を排斥するに陥りし、多大の苦無望を日本の將來に備して、忍耐懇意款勵誘の友道を尽し、能く其目的を達成せしは米國々民のト奥志易はペリー提督及びハリス公使の初め總領事

後に郭理公使)によりて十分に代表せられたり、千八百五十年

四年、ペリー提督開港の談判を為すに當り、横濱

國々民のト奧多島はペリー提督及びハリス公使(初め總領事)

後に郭理公使)にやうて十分に代表せられたり、千八百五十年

四年、ペリー提督用港の談判を為すに當り、横濱港

内に艦隊を駐泊せしが村吏石川徳右エ門氏旗艦に

到りて提督に謁せし時、腰間の扇子を抜き取りて提督

の揮毫を乞ひしに、提督欣然其事を操りて *friendly*

to all nations と記し、辯舌を以て其意を漢字

に翻せしめたるに、四海之内皆兄弟也と書したりも、其扇

子今に石川氏に傳へては水戸人とせり、米國が人類相愛

萬邦兄弟の主義を著して、日本の用國を促かせる事

今の意気は、提督が一句が片子の短文に法附せり、日本

國を以て米國に對する友誼は、上述の歴史に於て成立し、

其目的を達せんが爲めに激ゆる純血の犠牲によりて神

今年の意思気は、提督が句が字の短文に流離せり、日本

國民が米國に對せる友誼は、上述の歴史にうけて成立し、
其目的を達せんが爲めに激ゆる純血の犠牲にうけて神
聖にせられたる

兩國通交の由も不共の若し、日本は米國の勸告を容れ
て國を開放せり、米國の屬望に背あつしと違ふの新
境に入れり、米人の歡喜喜満足想ひ見ふ可し、獨り怪む
近時米國に日本人排斥の說を唱ふる者出で、國交通
商に不良の影御音を及ぼさんとすよを、往年は米國四
通交人熱祖愛の神意ふよを説き、日本之にうけて帝
國を開放し、外人と交際するにきり、今は米國日本人の

派中をよみ、交通を廣むるを解けんとす、抑亦うよ
らすや、然れども是れ必ず健全ある米人の主張にあらず

國を開放し、外人と交際するに至り、今は米國日本人の

派本をこらみ、交通を廣むるを辭けんとす。抑亦さうぶ
らふや、然れども是れ必ず健全なる米人の主張とあり、
固より米國の本意にあらざり。蓋し一奇無識の徒が無
事無任の説を立て、之を藉りて他の目的に利用するを有
り可きは、吾人の信ずる所あり、五十年前の日本に外人

排斥の爲ありし時、米人之を日本國民の立場にあらざりと
して、寛容の氣象と深厚の同情とを我に下せり、五十年
後の米國に日本人排斥の聲あるも、日本人は往時を回顧
して、其頃の米國々民の聲にあらざるを恨ざるとも、短く
派本せるパリ提督の艦隊は日米交際の端を啓けり、

今日スパリ提督の幸ゆる、艦隊は第二のパリ艦

隊に外ならず、其本筋は日本の真状態を洞悉し、彼

派來せるペリー提督の艦隊は日米交渉の端を啓けり

今日スペリー提督の幸ゆるる艦隊は第二のペリー艦
隊に外ならず、其來訪は日本の真状態を洞悉し、彼
等の情勢を疏通して、米國二帝の龍解を敬い、甚は
安を拂ひ云ふに事なきや、而して五十年向米國艦隊
兩回の入港は、昔に平和の使者にして、國交締睦の目的
は年を隔て、一致せり、吾人はペリー提督使令の成功
を回顧して同一の好望をスペリー艦隊に屬す、